
俺の居場所

GODAIGO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺の居場所

【Nコード】

N5287Y

【作者名】

GODAIGO

【あらすじ】

二年の初めに碧陽学園に転入した月之宮ルサは偶然助けた後輩に連れられ、

生徒会室へ足を踏み入れる．．．様々な出来事、人に関わる中、生徒会メンバーはルサにとって心のより所になっていく．．．

（生徒会の一存×オリキャラ多数です、キャラ崩壊等があります）

オリキャラの紹介

月之宮ルサ（つきのみや） 17歳 血液型 AB

身長 175cm

体重 70k

利き腕、聞き足 右

第一人称 俺、私

口癖 あれ？ うん！○○だね！

本作の主人公、青髪のショートヘアで明るい性格の持ち主
ボケばかりの生徒会で貴重なツツコミの為、
くりむからは可愛がられてる・・・らしい、
転入前の高校で一騒動起している

佐藤庄耶さとう しょうや 30歳 血液型 B

身長 180cm

体重 80k

利き腕、聞き足 右

第一人称 俺

口癖 そうだな

月之宮のクラス担任で、担当教科は体育、

生徒一人一人の相談に乗るなど、色々頼もしい人である為、

生徒、教師共に人気が高い、怒らせると恐ろしいとゆう一面も持つ

オリキャラの紹介（後書き）

はじめまして！GODDゴダイゴAI GOと言います、
小説初挑戦ですので、キャラ崩壊、原作から離れた話しになりかねません、

そこを承知の上、温かい目で見てくださると光栄です！

因みにタイトルの方ですが．．．実はまだ決まっていけません．．．
思い浮かねければこのままのタイトルでいきたいと思います、
では、未熟者ですが、宜しくお願いします！

ブローグ

「おお、寒みい」 俺、月之宮ルサはそう呟きながら夕暮れの街中を歩いていた、

この町に引越して来たのは一昨日の話だ、当然、道も知らない訳だが・・・「お、あつたあつた」

幸い近くにコンビニがある事だけは把握していたので

散歩がてら夕食の買出しに行く事になり今に至るとゆう事だ、

とにかく俺はローオンで買い物を済ませ、

帰宅しようとした時だった「・・・ん？」路地の奥の方から叫び声が聞こえた気がした、

俺は少し気になったので行って見る事にした（とゆうか、帰宅ルートの方から聞こえたし）

「良いから来いや！」「嫌！離して下さい！」「案の定、とでも言うべきだろうか、そこでは

男女が揉め合っていた、いや正確には男の方が女の子の手を無理矢理引っ張っていた、とゆう感じた、

どうせカツアゲか何かだろう、しかも道のと真ん中で、迷惑極まりない、ご近所迷惑だ、

何より女の子が嫌がっているではないか、「良いから来いって言うてんだよ！」対に男がキレたのか、

半ば強引に女の子の手を引っ張った、「い、痛い．．離して．．」
痛さと恐怖からだろうか、

女の子の方は半泣き状態だった「．．はあ、」もう良いだろう、

出来れば他の誰かが来て解決、が望ましかったが、

ここまでとなると放ってはおけない、

それにこの後誰かがこの道を通るとゆう確証も無い、

「、、、また問題を起すつもりは無かったのになあ．．」などと愚痴りながらも、

俺は女の子の手を引っ張っている男の真後ろに立って一言言った「
なあ？そこどいてくれないかな？

通行の邪魔なんだけど」「あ！？んだとコラア！」男は振り返って
物凄い剣幕で睨み付けて来た、

おお、怖い怖い、「聞こえなかったか？通行の邪魔だからどけ、後、
女の子から手を離せ」

「何でデメエなんか指図されなきゃならねんだ？アアン！？」

そつゆうと男は俺の胸倉を掴んで来た、血の気の多い奴だなあ、ち
やかり手も離してるし、

一方俺はとゆうと、顔を男から背けてる状態だ、まったく、五月蠅
い奴だ

「デメエ．．やんのかゴラァ！」

．．胸倉を掴んだ状態で大声で叫ぶんじゃないよ、耳キーンってなるだろうが

「ったく、うるせえなっ！」 さっきの大声で軽くイラッとしてたので、

割と本気で男目掛けて頭突きを繰り出すと「ぐおっ！？て、デメエ．．」

モロに食らい男がフラつく、

まあ、そんなチャンス見逃す訳も無く、

トドメと言わんばかりに顔面に蹴りを食らわせる

男は鼻血を出しながら倒れてしまった「．．少しやりすぎちまったか？」

今更になって少しやりすぎてしまったのでは？などと思っている自分が居た、

しかし今更後戻りも出来ない訳だが、まあ．．取り敢えずは．．

「君、怪我は無い？」 「は、はい、あの．．助けてくれてありがとうございました」

まだ怯えているのだろう、まあ無理も無い、まだ少しぎこちない感じだが、

先程よりは落ち着いたようだ「お礼を言われるような事はしてないよ、無事で何より」

「いえ、お陰で助かりました、あの、良ければお名前を．．」

「ん？俺？俺は月之宮ルサ、君は？」

「あ、真冬、椎名真冬です」

お互いの名前を知った後、俺は分かれ道まで真冬ちゃんを見送る事にした、

俺への道案内もかねての見送りみたいなものだ

それに、先程のような奴らがまた現れたら真冬ちゃん一人じゃ危ないしね、

そして特に何も無く順調に進み「では、真冬はこっちの方なので．

」

どうやらここでお別れらしい、俺の家とは反対の方を指している、

「そっか、一人で大丈夫？」「はい、そこまで遠く無いので、今日は本当にありがとうございます」

一礼する真冬ちゃん、

「いや、気にしないで良いよ、気を付けてね」

「はい、では」そう言って帰ってゆく真冬ちゃん

俺は真冬ちゃんが見えなくなってから俺自身も帰宅ルートに戻った。

（椎名真冬ちゃんか、また会えると良いな）なんて思いながら帰っていた矢先、

ハッと気がついた、周りの景色が真っ暗な事に

「・・・今何時だ？」色々ありすぎた為忘れていたが、俺は買出しに行っていたのだ。

携帯の時計を見ると（20時45分）「・・・チクショオオオ！！」

取り敢えず猛ダッシュで帰宅、遅すぎる帰りにこっ酷く叱られたのは言うまでも無かった

プロローグ（後書き）

お、終わったあ、とゆう訳でどうも、作者のゴダイゴです、
いかがでしたでしょうか？初めてとゆう事もあり、

色々可笑しい部分があるでしょうが、多目に見てやって下さい
！！（土下座）

後、真冬の男性恐怖症ですが、コレがあるとルサとの絡みが成り立たないと思った為、設定からは外しました、早速キャラ崩壊ですね、
申し訳ございません、

まあ、次回からようやくルサの学生生活が始まる訳ですが！

まだ仕上がっていません・・・気長に待って下されば必ず書き上げますので、

ああそれと、庄耶先生の出番はもう少し先の予定とだけ、では、また次回

お会いしましょう！

第1話〜その後（前書き）

お久しぶりです、駄文で良ければどうぞ

第1話〜その後

23時30分

「あゝ．．．疲れた、まさかここまで長引くとは」

真冬ちゃんを見送り家に帰って来た俺を待っていたのは

全身の血が凍りつくような母の笑顔だった、その後は、まあ．．．分かるだろう？

で、父母双方にコツテリ絞られた俺は当然新しい自室を見回す事無く

ベットに倒れこんだ「ふう．．．さて、と」

ある程度休んだ俺は布団から起き上がり、机の上にある紙切れに目をやる

「碧陽学園か．．．」明日からこの学園に通うのか。

「さて、どうなるのかね」まあ、俺としては楽しい学園生活が送れればそれで良いか

「取り合えず今日は寝るか」

新しい学園生活にすこし期待しながら、俺は眠りについた

第1話〜その後（後書き）

あ、アイデアが思い付かない・・・更新ペース大幅に遅れるかもです、

気長にお待ちを>>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5287y/>

俺の居場所

2011年12月2日19時48分発行